

科目名	精神看護学概論	対象学年・時期	1学年・後期
講師	非常勤講師・専任教員	単位数・時間数	1単位・15時間
授業概要	「精神看護学」が独立した科目立てになったのは1996年の指定規則改定以来である。精神保健・看護のニーズは多様化しており、その需要が高まっている。精神看護学の構築においては、全体の概観から俯瞰すると「伴走型支援」と「問題解決型支援」の両面から多職種と連携し看護を実践することが肝要である。精神看護の対象を3側面から理解するまでの過程そのものが、精神看護の基盤であり、看護者自身の価値観・信条、対人関係における傾向など、看護者自身を理解し、看護者自らを使い看護するのが精神看護の特徴ともいえる。概論においては、障害との付き合い方のみならず、生涯、社会生活の中での生きづらさや不自由さを抱えて生きるという対象のとらえ方を、こころの機能と構造・健康レベル・環境・発達段階など多様な角度から理解を深めてほしい。さらに、精神の健康を支える精神保健と精神障害者の生活を支える精神障害者福祉を統合した精神保健福祉活動の概観を捉えてほしい。		
授業形態	講義・グループワーク		
学習目標	1 精神看護の対象が理解できる 2 精神の構造と機能が理解できる 3 こころの発達と健康が理解できる 4 発達段階や生活の場における危機について理解できる 5 精神保健福祉の歴史について理解できる 6 地域保健活動について理解できる		
授業計画	1 回目：ガイダンス ガイダンス 精神看護の対象 障害とは 事前学習：国民衛生の動向「保健と医療の動向」内の「保健対策」内の精神保健 教科書 P14～28 2 回目：人間のこころと行動 事前学習：教科書①P30～50 3 回目：ストレスに対する身体的反応 事前学習：教科書①P66～101 p190～230 		